

**薬に手術が受けられる  
内視鏡を使った手術  
胆石、気胸、肺がん**

これまで、内視鏡を使った手術というと、胃、食道、大腸などのポリープや小さいがんを切除するといった、比較的簡単なものが行われていました。

ここ二十年位前より主に胆石症に対する腹部の手術、自然気胸や小さい肺がんなどに対して、腹腔鏡や胸腔鏡を利用した手術がはじまりました。

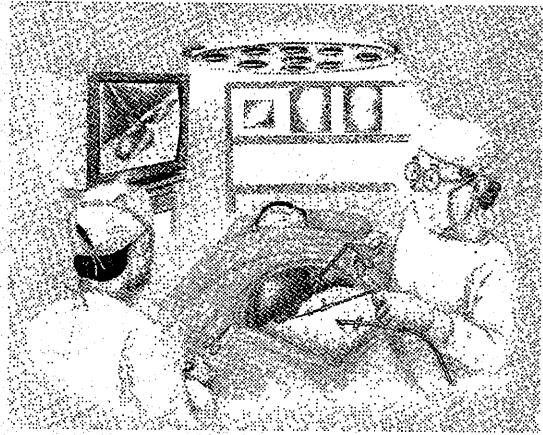
最近になり、手術の器具も便利なものが揃い方法も確立され、手術をする医師も熟練して来ましたので、日常に行われる手術になって来ました。

大きく切らないで手術ができるので、患者さんの負担が軽くなること、大きなメリットです。

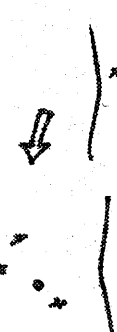
**胆石症**

胆石というのは、肝臓の下についている、胆のうという袋の中にできる石です。この石が胆のうの出口に詰まると、右の上腹部から、右背部にかけて、強い痛みをおこします。

また石があっても、痛みを起さないうちにも多いのです。胆石があると、胆のうがんを起す割合が高くなるといわれています。

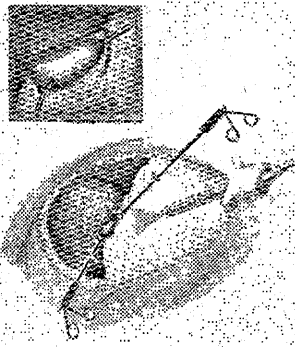


胆石をみつけたらできるだけとってしまいたいわけですが、そのためには、お腹を大きく切らなければなりません。でもないので強い痛みが起った時でもないと手術をすすめることがむずかしく、医者も困ってしまいます。



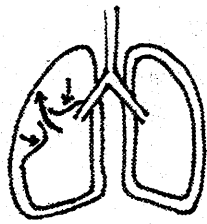
この手術を行うためには、胆のうがあまり病気を起していないことが、条件となります。

何回か痛みを繰り返しますと、胆のうが周囲のものと、ペチャペチャにくっついてしまい、手術がむずかしくなります。ですから、検診などで胆石を発見されたら早いうちに、内視鏡手術で、胆石だけ取るか、胆のうごと胆石をとるかの方法をとるのが賢明です。



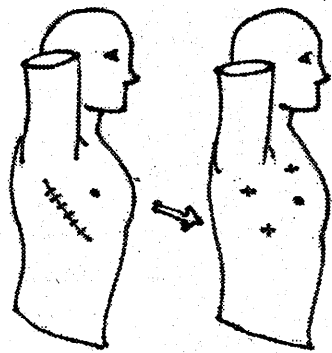
**気胸**

自然気胸といって、肺に穴があいてしまい、そこから空気が漏れ、肺が縮んでしまい、呼吸が苦しくなる病気があります。この病気の場合自然に治るのを待っていますと、一ヶ月位入院が必要でした。



また、手術をするには大きく切らなければなりませんのでいずれも治療に時間がかかっていました。胸腔鏡を使って手術をしますと、胸部に

穴を三ヶ開けるだけで済みます。入院も一週間位で済むようになります。



**肺がん**

肺がん検診が良く行われるようになったこと、CTなどの検査技術が進んだことなどで、直径1cm前後の小さな肺がんが見つかることが多くなりました。

せつかく小さいがんを見つけても、胸をバカッと開いて手術するのはおおげさな感じがしていました。

今では、胸腔鏡を使った手術で、小さな穴から肺の一部だけを切りとってしまいうことができるようになりました。



肺がんは多くなっています。できるだけ精密な検診を受けて肺がんを早いうちにみつければ、大事に至らないようにしましょう。

院長

**1月・2月の休診日**

(日曜・祭日)

水曜・土曜・第一火曜午後)

1月19日(火)午後



みなさんの質問や投稿をお待ちしております。

★受付けからのお願い  
目初めには必ず保険証を受付けにお出し下さい。  
診察券は毎回お持ち下さい。